

小学生が縄文アートを作る「ペーパー尖石遺跡」(市中央公民館、京都芸術大学・同大学付属康耀堂美術館、尖石縄文考古館共催)が30日、茅野市豊平の同考古館と青少年自然の森で行われた。市内の小中2～5年生10人が参加。午前中に縄文土器の観察やスケッチを行い、午後は「ペーパー土器」作りを楽しんだ。

ペーパー土器“発掘”

尖石遺跡 小学生が縄文アート

授らが講師を務め、芸術教育について学ぶ大学院生8人も作品制作に協力した。子どもたちは紙製の筒に縄を巻いて絵の具を塗り、約4畳四方の模造紙の上に転がして思い思いの模様を描いた。その後、午前中にスケッチしたお気に入りの土器の形に紙を切り抜いて、自分だけのペーパー土器を「発掘」した。

泉野小4年の永田陽也君は「いろいろな色の絵の具が使って楽しかった」と笑顔。上村教授は「子どもの観察力が育ち、学生にとっても小学生の生の反応を見られる貴重な機会」と話した。

(久保勇名)



約4畳四方の模造紙に思い思いの縄文模様を描く小学生